

炭焼き長者譚と中国の類話

千野明日香

日本で【炭焼き長者】譚と呼ばれる話型の昔話はインド以東の東アジアで広く伝承されている。

中国で【炭焼き長者】譚に対応する話は、福運のある女性が登場する運命譚の二つのサブタイプ【自分の運命によって生きる王女】
【金貨を見分けられない乞食】(中国の話型については本論文末話型要約、類話については本論文の後ろの表参照)とされる。これらはそれぞれ【炭焼き長者・初婚型】【炭焼き長者・再婚型】に対応するとされ、すでに伊藤清司の詳しい論考がある。

伊藤の論の中心は【炭焼き長者】譚の構造分析である。伊藤は日本、中国、朝鮮の【炭焼き長者】譚の構造について「【初婚型】と【再婚型】」の本末関係はきわめて高いフレキシビリティをもつて、話の主人公である福運をもつ女を娘とすれば、彼女をはじめに逆境リマイナスの領域においやるのは父親となり、同じく妻とすれば、それは夫となるという換置自在の関係にあり、勘当か離婚かは父親か夫かによって自動的に変換し、説話の構造は何ら変わらない」と述べている。

伊藤はこの点をふまえ、東アジアの【炭焼き長者】譚は「【初婚型】と【再婚型】」を問わず、しかも中国・朝鮮・日本などの地域を

問わず、同じような構造を共有しており（またはいた）、同一の起源をもつもの」であると主張した。

だが、伊藤の論には二つの問題点があると思われる。第一に、【炭焼き長者・初婚型】と【炭焼き長者・再婚型】とはあくまで日本の昔話の分類による話型名である。この分類はそのまま中国の昔話の分類にあてはめられるのだろうか。なぜなら中国の両話型のうち特に【金貨を見分けられない乞食】は漢族と少数民族では類話の性質が異なるなど複雑な伝承の様相をみせ、必ずしもそのまま日本の【炭焼き長者・再婚型】には対応しないと思われる所以である。

第二に伊藤の主張する同一起源説が正しいとすれば【自分の運命によって生きる王女】【金貨を見分けられない乞食】の分類は意味をなさなくなるわけであるが、詳細に見較べると、兩者は質的にかなり異なった傾向を示す。

たとえば【自分の運命によって生きる王女】と【金貨を見分けられない乞食】にみられる男女の福分と福分の現れ方は、少数民族と漢族ではおのおの異なった発想を核としているのではないかと思われる。これら男女の福分のありかたは両話型の運命譚としての核心的な部分といってよい。

こうしてみると中国の類話は二つの異なる起源の話が出会い、相互に結びついた結果、同一起源であるかのような様相を呈しているとも考えられる。

そこでこの論では【自分の運命によって生きる王女】(42話)と【金貨を見分けられない乞食】(34話)に現れる男女の福分を視点として、さらに詳しく両話型の中国での伝承の様相を論じてみたい。

1 福分をもつ男・契機をもたらす女

【自分の運命によって生きる王女】が最も典型的な語り口を示すのは、漢族ではなく中国西南部のペー族、ハニ族、サニ族、チンボー族、華南のチワン族、ヤオ族、華中のミャオ族などの少数民族である。

なかでも雲南省ペー族の伝える「輶角荘」はすでに明代(一六世纪)の『南詔野史』に輶角荘の地名由来譚として現れてくる。「輶角荘」の類話には日本と同じ炭焼きも登場し、【炭焼き長者・初婚型】との類似が注目されてきた。その中でも炭焼き張保君は有名である。

白王の王女、白娃は父王の意に逆らって自分の福分で生きていると主張し、水牛に乗って炭焼き張保君の家へ行き、押しかけ嫁になる。白娃が父王を家へ招こうとすると、父王は怒って宮殿まで金の橋をかけ、銀の道を敷かなければ行かないと答える。白娃が張保君に銀を三つ渡して米を買ってくるよういうと

張保君は悪い犬、馬、雀に投げつけ、なくしていく。ところが老母が病気になつたので薬を買うため白娃が金を渡すと「こんなものは珍しくない。俺が毎日炭を焼く山の谷はこういう黄色く輝く、ずつしりしたのでいっぱいだ」という。白娃は山から金を運ばせ、二人は大金持ちになる。白娃が王宮まで金の橋をかけ、銀を敷きめると父王は白娃の福分に感嘆したという。

この炭焼き張保君は現在、雲南洱源のシェドン、チバオなどの村々で本主、つまり産土神として祭られ、崇拜されており、洱源一帯の人でこの話を知らない人はないという。⁽²⁾

ところで少数民族の伝える【自分の運命によって生きる王女】に頻出するのはこの炭焼き張保君の中にも出てくる「女が実家から持参した貴金属類(あるいは貴金属類についての知識)がきづかけとなり、男が身近にある財宝の存在を認識する」というモチーフである(19話中18話)。このモチーフをここで仮に「財宝認識モチーフ」と名づけておく。

この財宝認識モチーフは少数民族にかぎり【金貨を見分けられない乞食】にも現れる(6話中5話)。

ところが漢族では【自分の運命によって生きる王女】に必ずしも現れず(22話中9話)、【金貨を見分けられない乞食】にいたつてはほとんど現れない(28話中2話、ただし2話とも不完全な形)。つまりこのモチーフは少数民族では両話型とともに多く現れ、漢族では両話型ともあまり現れないものである。

漢族の【自分の運命によって生きる王女】では財宝を獲得するきっ

かけは財宝認識モチーフ以外さまざまに分かれる。財宝など関係なく福建や華東地区の例のように夫婦で勤勉に働き金持ちになった、

というのもあれば、浙江の例のように女が財福星だったため自然と鳥金が川底から現れ、金持ちになつたという理由もある。

しかしさらに特徴的なのは漢族の場合、財宝認識モチーフをもつ類話も漢族が古くから伝える別の話型【妖怪の家】（日本の【宝化け物】【蛸長者】と対応）【子どもの宝】（沖縄の【鉄門の福分】と対応）と結びつき、漢族独特の展開をとげていることである。

すなわち、これら両話型のモチーフが結びついた話では財宝を守る妖怪が現れ、財宝は管理者の妖怪から所有者に引き渡されるのである。財宝は運命で定められた福運の象徴であり、定められた所有者のものにならねばならない。しかし財宝に近づき奪おうとする人間もいる。また財宝に気つかぬ所有者もいる。そこで確実に財宝を所有者にひきわたすための管理人が必要である。このような考え方を形象化したのが【妖怪の家】や【子どもの宝】のモチーフが結びついた話に現れる妖怪である（日本の宝化け物は人間の胆力に承伏し、宝を発見させるので、妖怪の性格は中国と正反対である）。

妖怪によって守られ、所有者に引き渡される財宝は、誕生時間で運命が定まるという漢族の考え方の集約的表現である。漢族にはこのような財宝の話が古くから多数あることは沢田瑞穂によつてすでに紹介されている。⁽³⁾

以上のように【自分の運命によって生きる王女】においては、財宝認識モチーフは漢族ではなく少数民族の伝承に優勢であるといえ

る。

ところでこの財宝認識モチーフはなにを意味しているのだろうか。

日本の【炭焼き長者】譚の解釈では女のもつ福分のみが強調される傾向があるが、このモチーフは本来は女の福分とともに男の無垢、無欲、天真爛漫さと男の隠された福分を表しているのではないかと考えられる。

たとえば「轆角莊」の類話で南詔王閣遷鳳の王女、鳳伽英と柴刈り李陽の話を例にあげたい。

柴刈りははじめ金の値打ちを知らず、王女に教えられてそれが財宝であることを知る。ところが値打ちを知つてからも金に 관심を示さない。「重たい金など背負つて帰つても着られも食べられもしない。大木でも伐つて持ちかえつたほうがまだましだ」と主張し、王女を困らせる。

この部分はいわゆる英雄的な人物像を作り上げるための政治的な書換えではないらしく、解放前の資料にも類似した例が出てくる。たとえば広西の話である。

柴刈りの朋居は山の上の石は金らしいと妻の阿香に教えられる。しかし夫は纏足の阿香を山へつれてゆかない。そこで阿香は一計を案じ、夫にわざと殻つきの落花生と砂糖黍をもたせて山へやり、後から殻を目印に山を登り、やつと金を発見する。ところが夫は「飢え死にしなければそれでよい。そのうえまだ金持ちになりたいのか」と喜ばない。二人はひとしきり言い

争つたすえ、やっと金の一部分を家へ運ぶ。

同じ例は広東連南のヤオ族にある。

夫の炭焼き溜仔は妻に教えられて山の炭窯の中にあるのが確らしのを知るが、妻が見本に一つもってかえってくれと頼んでも「俺は炭焼きだからそんなものはいらない」ともってこない。そこで妻は同じく砂糖黍を夫にもたせ、黍殻を目印に後から山を登り、炭窯から金を発見する。

財宝認識モチーフをもつ話では、夫は財宝に最も近く暮らしているが無知で財宝が財宝であることを知らない。しかし上の例をみると、財宝を知らない（無知）ということと財宝が知らない（無欲）ということは密接な関連をもつと思われる。

ところで日本にも無知無欲な夫が現れる例がある。『日本昔話大成』で【炭焼き長者・再婚型】の典型話としてあげられている岩手県遠野の話である。

この例では炭焼きの爺の炭窯辺には黄金が山のように積もっている。しかし炭焼き爺は愚か者である。爺は女房から小判をもらつて米俵を買ってくる。しかし帰り道、爺は自分の影法師を人と勘違いし、影に米を投げてやりながらくる。

この爺も財宝に埋もれている無知無欲の人である。こうしてみると無知無欲の人の中には財宝が集まるが、でもいうような考えがあるのだろうか。一族で炭焼き張保君が本主、つまり「本地区の生死禍福の主宰神」として祭られているといふことも天性の福分と関係があるかもしれない。

ともあれ財宝認識モチーフとともに財宝を発見する男は大変な福分をもつといふことがいえる。しかし一方で、男は女が契機をもたらさなかつたら決して財宝の持ち主であることに気づかないのも確かである。この意味で男女は互角の福分をもつといえ、どちらか片方が主人公であるとは言えない。
したがつてこのモチーフをもつ話の興味はともに福分をもつ男女がどのように財宝を発見するかという点にあると思われる。

2 福分の有無

一方【金貨を見分けられない乞食】の類話がもつとも多く、典型的な形でみられるのは安徽、河南、山東などの漢族地区であり、財宝認識モチーフとの結果の財宝獲得がほとんど現れないのが【金貨を見分けられない乞食】の特徴である（28話中2話）。ただし、このモチーフに近い例はある。
たとえば山西の例である。この話では追い出された郭燕双は義兄妹の契りを結んだ貧乏人張三の家庭で金銀を見つける。ただし、貧乏人とはいえ張三はもともと金銀の価値を知らなかつたわけではない。

また金銀は二人が義兄妹の契りを結んだから出現したのである。この点に関しては「人の気持ちが一つになつたとき、黄土も金に変わる」と説明されており、張三は何も知らずに金銀に囲まれて暮らしていたわけではない。したがつてこれは少なくとも典型的な財宝

認識モチーフではない。

つまり漢族の伝える【金貨を見分けられない乞食】の興味の中心は財宝発見はないのである。したがつて男女の福分のありかたも異なつてくる。

まず重要なのは登場人物の福分の有無、あるいは強弱である。登場人物はすべて福分の有無、強弱の体現者であり、話の興味の中心

はそれらの対照にある。

漢族の【金貨を見分けられない乞食】は、女と新しい夫の福分の有無強弱により二系列に分けることができる。

第一の系列は福分をもつ女が福分をもたぬ（あるいは弱い）男と再婚する場合である。この場合は福分をもつ女は福分をもたぬ女（あるいは夫との福運較べ）が原因で福分をもたぬ男と別れ、福分をもたぬ別の男に福分をもたらす。

第二の系列は福分をもたぬ（あるいは弱い）女が福分をもつ男と再婚する場合である。この場合は強い厄運をもつ男と別れた福分をもたぬ（あるいは弱い）女は福分をもつ男と再婚し、この男に福分をもたらされる。つまり玉の輿に乗るわけである。

福分をもつ男女の、配偶者への福のもたらしかたは常識的、現実的である。

山西の例のように妻の財産が先夫の家から移動してきたからなどと理由づけられることもあるが、むしろより漠然と、働き者の妻が来てから家畜や穀物のたくわえが多くなり、金持ちになつたと説明されることが多い。

安徽の例では息子が生まれたり、浙江の例では老母の病気が直つたりと副次的に女のもたらした福分を表している。

ここで表される福分の内容はあくまで漢族の農耕民の価値観であり、少数民族の話に頻出する財宝認識モチーフとは異質な印象を受ける。

3 福分をもつ女・福分をもたぬ男

ところでなぜ漢族の【金貨を見分けられない乞食】では以上に述べたような福分の有無、強弱が興味の中心となるのか。この問題は漢族の【金貨を見分けられない乞食】がいかに伝承されてきたかといふ問題と深くかかわると思われる。そこで第一系列に属する「張郎と郭丁香」の物語をとりあげ、この問題を考えてみたい。この物語は芸能化し、安徽省阜南、河南省固始の両県では「竈書」と呼ばれる語り物になつてている。「竈書」は、文化大革命以前までは十日から一ヶ月もかけて語られたといふ。

また端公と呼ばれる民間の巫祝の宗教的歌舞が芸能化した端公戯も「張郎と郭丁香」の物語と関係がある。安徽省の淮河中流の端公戯は丁香班子とも呼ばれ、一ヶ月あまりもかけてもつばら「張郎と郭丁香」の物語を語つたといふ。

この物語は、話によつて登場人物が張太剛、張大郎などわずかに異なるが、基本的には「張郎と郭丁香」と呼ばれている。語り物は地方劇になつたり、新たに昔話になつたりして広まつても、やはり

「張郎と郭丁香」という語り物の登場人物の名を残す（以下このよ

うな話を語り物系統の話と呼ぶ）。こうした固有の名前をもつ昔話

や地方劇は安徽、河南以外では東北から山東、河北、河南、江蘇に

も見られるが、これらの話の輪郭については飯倉照平がすでに紹介

しているのでここでは省略する。

それよりも注目せねばならないのは、「張郎と郭丁香」の物語が

女によって支持されつづけてきたという点である。楊纖如は「竈書」の語り、つまり竈語り（原文・唱竈）を聴く聴衆についてつぎのように述べている。⁽⁵⁾

竈語りの曲調は単純で所作も素朴である。その間に夏の夜、町の街頭でいったん語りはじめられれば夜中まで語りつづけられ、聴衆も終始倦むことがない。聴衆には男も女もいるが、とりわけ女が愛好する。若い女は表だって聴きに行けないものの

気もそぞろ、さてどうするか。家の戸の後ろに隠れて盗み聴くしかない。広場に近い家々では竈語りのたび、戸の後ろに遠い親戚や近所の若い女少女たちがぎっしり座っている。

楊纖如は竈語りが長ければ夜ごとひと月にもわたり語られるのは「すべて語り手の才による自作の敷衍なので」嘘八百という言葉は竈語りと関連した「竈連子」という言葉で表されるという。つまり語り物系の話は細部では色々な変化があり、語り手の数だけテキストは存在したと思われる。しかし、現在詳しく見ることのできるテキストは雑誌『民間文学』に掲載された「郭丁香」（一九八一）しかない。ここではこのテキストによってなぜ女たちがこのように

「張郎と郭丁香」の物語にひきつけられるのか考えてみよう。

「郭丁香」の登場人物は郭丁香と張万良（瑾玉とも）、後に丁香が再婚する柴刈り范三郎である。

物語の前半ではひたすら健気な妻の夫にたいする献身が語られる。

郭丁香は仲人口にだまされ貧しい張家に嫁ぐ。夫の張は怠け者であつたが、働き者の丁香は嫁入りのさいに持参した装身具を売り、鋤鍬を買って開墾にはげむ。丁香は実家から牛、車、稻もみ、豚、羊をもらひ、さらに働く。張は労働にあき、出奔する。しかし張家は丁香の働きで金持ちになる。三年後、金を使い果たした張が帰郷し、父方のおばの誕生日祝いに行くという。丁香は一晩ばかりで夫の服に刺繡する。

後半からは妻の献身にたいする夫の裏切りと離別、新しい夫との出合いが語られる。

祝いに出かけた張は親戚の王滿香と占い師に出あう。彼らは丁香に子どもが生まれないのは丁香に福分がないせいとおとしめる。張は満香の妹王妙香（花花二海棠とも）との結婚を決意、この柴刈りと結婚する。丁香が来てから貧しかった張家は穀物と家畜があふれ、息子が生まれる。

最後の場面で丁香は新しく得た幸福の絶頂で先夫と再会する。息子の誕生日に訪れる客に混じって盲目の乞食が現れるが、

それは先夫の張だった。張は相手が先妻とは気つかず、問われるままに妙香との再婚以後の出来事を丁香に話す。妙香は浪費家で火事を出し、老母とともに焼死。張は盲目の乞食となつたといふ。丁香が竜頭細麵湯を施すと張は先妻を思いだし涙を流すが、丁香がわざと入れておいた金簪は骨と勘違いして地面に捨てる。丁香が二杯めには髪を一本入れておくと三尺というその異常な長さから相手が先妻と気づき、竜に飛び込んで焼死する。

焼け残った服は竜掠りに、大腿骨は火搔き棒になり、後の人にはこれを竜の心棒に据えたといふうに、話は竜神由来譚としてしめくられる。

丁香と張の再会の場面は「竜書」全体の山といえる。かつて女を窮地に追い込んだ男が零落し、盲目の乞食として登場するこの場面は女性に一種のカタルシスを与えるだろう。このカタルシスのために全編はなりたっているといつてもよい。

カタルシスを強めるためには、柴刈りは福分をもつ男であってはならない。もし例の財宝認識モチーフがここででてきたら、柴刈りは福分のある男となり、互角の福分の持ち主として郭丁香は唯一のヒロインではなくなる。すると女性の感じるカタルシスは弱まるのである。女は強い福分をもち、福分のない貧しい男の家へ福をもたらすという展開が必要なのである。

このように【金貨を見分けられない乞食】の第一系列の話では、家が裕福になるのはまったく女の福分のおかげであるから、極端な

場合、再婚の夫が存在しない。夫は福分をもたないので、いなくても話は成り立つ。

たとえば追い出された妻が再婚せず、長江流域の例のように一人で難民の頭に出世することもある。また尼僧庵の庵主になつたり、女一人で裕福に暮らしていたりする話もある。

4 福分をもたぬ女・福分をもつ男

第一系列の話にたいし、第二系列の話は福分をもたぬ（あるいは弱い）女が福分をもつ男と再婚する場合が多い。ただし話の中心はこの二人ではない。この系列の話でもっとも主要な登場人物は離婚した先夫であり、強調されるのはその厄運の強さである。

強い厄運をもつ男と別れた福分をもたぬ（あるいは弱い）女は、福分をもつ男と再婚できた場合この男の福分を受けることができるのである。

これらはいずれも漢族の話で、河南、廣東、台灣など南方だけでなく吉林、陝西など北方にも類話があらわれる。日本では『神道集』の芦刈説話にあたる。

第一系列に出てくる夫は先夫、新しい夫のいずれも福分をもたない。新しい夫の職業としては柴刈り、野草取りなどがある。

しかし第二系列の話に登場する男たちは単に福分をもたないといふより、酒飲みの博徒、兵隊くずれの乞食、阿片中毒者、異常に貧乏な左官屋など人生の落後者といった趣きの、強い厄運の持ち主で

ある。

夫の厄運があまりに強いので、女は夫と別れることによってやつと活路をみいだすのである。しかし女の福分が弱いので別離が活路とならぬこともある。

いずれにせよ重要なのは女が貧乏神のような夫と別れることであり、別離の方法によって話はつぎの三種類に分かれる。

第一に夫による妻の売却、放置、第二に妻による夫の殺害、第三に妻の自殺である。

第一の場合、夫に売られたり、放置された妻は福分をもつ男と再婚する。

女が再婚するのはいずれも最初から金持ちの男であり、女の福分が新しい夫を富ませるわけではない。この意味で女に福分はない。少なくとも福分は弱い。ただ女は別れた夫のような強い厄運をもたぬので、新しい夫の福分を受けることができる。

妻の再婚の原因はまちまちである。河南の例では、夫が兵隊に行つたきり七、八年も帰らず暮らしがたないので、妻はやむなく自分から再婚する。また、廣東の話のように妻に阿片を買つてもらついた阿片中毒の夫が、まとまつた金を手に入れるため妻を売るという展開もある。

これらの場合では金持ちになつた妻は必ず先夫と再会する。

たとえば河南の例のように兵隊くずれで乞食となつた先夫、張定福は再婚後の妻のもとへおしかけてさらに米を無心したりする。ま

た、廣東の例では家に仕事にきた左官を妻が先夫と氣づく。

潮州（廣東省）の例では妻のもとへ乞食におちぶれた先夫が知らずに物乞いに訪れる。妻は先夫の乞食を抱いて大泣きする。そして家に入れ、その家に雇われるよう勧めるが、帰宅した現在の夫はとつさの誤解から乞食を切り殺してしまう。

日本の芦刈説話がそうであるように、この系列の話には哀切な印象が漂う。その原因は先夫の厄運が強く、女も新しい夫の福分を受けるという弱い福分しかもたず、幸の薄さを感じさせるからであろう。

第二の場合、妻は夫を殺害することによって別離し、再婚しない。廣東の例では怠け者の張は妻に殺される。

張は怠け者で生活は妻が支えていた。年末に妻が張を妻の実家に行かせると、岳母は米の袋の底に銀を入れてもたせてくれる。しかし張は重いのを嫌って途中で袋を乞食にやつてしまふ。妻は怒つて張を火搔き棒でたたき殺し、竈の下に埋め、

「竈君」と記した位牌を竈の上に置く。すると家はしだいに豊かになつたといふ。

生前の張は貧乏神と同義の存在であつて、妻は夫を殺してしまうことにより小康を得るのである。

第三の場合、妻は福分をもつ男とめぐりあえず、自殺して厄運の夫と別れる。

陝西の例では夫は博徒である。

博徒は妻を賭けたあげく博打の勝負に負け、かたとして博徒仲間に妻を連れてゆかれそうになる。しかし妻は悲しみのあまり

その場で竜に頭をぶつけ、自殺する。

この場合、女は福分のある男、金持ちに巡り会えなかつたので最後まで運がない。

以上見た【金貨を見分けられない乞食】の第一、第二系列の話はすべて漢族の話である。総じて漢族の話は福分の有無が興味の中心となつており、そのため福分がないと悟った男が死んで竜神になるという竜神由来譚に結びつく。第二系列の話では竜神だけでなく広東翁源の例のように年末の送窮つまり貧乏神送りの由来譚にも結びついている。

第一系列と第二系列の話はどちらが古い起源をもつのかはわからぬが、元の亭主が強い厄運の持ち主とされている点から考へると、第二系列の話は竜神＝厄運の男という観念がすでに定着したのちに展開した話かもしれない。

しかし、どちらが古い起源をもつにせよ、注目せねばならないのは、漢族の【金貨を見分けられない乞食】がいずれも財宝認識モチーフとは無縁な点である。これらの話はいずれもが身にそなわる福分の有無との対照を問題にしており、財宝認識モチーフのような「ともに福分をもつ男女がどのように財宝を発見するか」という福分の現れ方を問題にしているのではない。漢族の話はやはり福分の有無が興味の中心なのである。

ところで漢族の【金貨を見分けられない乞食】に財宝認識モチーフが見られないのは、初めこのモチーフがあつたのに、語り物として伝承されるうちに消滅したのだろうか。それとも、もともとこの

モチーフはなく、それがそのまま語り物に受け継がれたのだろうか。

この問題については語り物系統の話と、より多くの語り物系統以外の話を比較しなければ結論は出ないと思われる。しかし財宝認識モチーフは少数民族の話に明らかに顕著な形で多数現れ、漢族の話には少ない傾向があることはすでに指摘したとおりである。

また結末の竜神由来譚についても、漢族と少数民族の話は異なつた傾向をみせることを指摘しておかねばならない。たとえば漢族の伝える【自分の運命によって生きる王女】の結末は竜神由来譚とはならないが（22話中0話）、【金貨を見分けられない乞食】ではほとんどが竜神由来譚となる（28話中26話）。

一方、少数民族の【自分の運命によって生きる王女】は竜神由来譚となることがある（19話中4話）。また【金貨を見分けられない乞食】も竜神由来譚となるが、漢族ほど多くない（6話中2話、ただし1話は囲炉裏神）。つまり少数民族では両話型とも竜神と結びつき、しかもその比率は高くなないのである。

上記の結果では竜神由来譚は漢族の【金貨を見分けられない乞食】の顕著な特徴である。このような傾向を見ると、竜神由来譚との結びつきについては漢族の伝承が少数民族に浸透していくと仮定することも可能なではないか。この点にかんしては特に少数民族の竜の歴史の調査が必要となろう。少数民族の竜が漢族文化の影響で発達したのであれば、漢族の竜神由来譚が少数民族地区へ伝播したという仮説も有効かも知れない。

5 結 び

まず両話型の起源の問題についてまとめておこう。

現在みられる中国の類話を検討した結果、【自分の運命】によって生きる王女】は少数民族に、【金貨を見分けられない乞食】は漢族の伝承に数多く、典型的な形で現れることを述べた。

これらが同一起源であるか、起源が異なる二つの話がモチーフを換置しあつてあたかも同一起源のような伝承の様相をみせるのかという問題については、現時点では決定できないというのが実状であろう。

ただ、【金貨を見分けられない乞食】は漢族では語り物として河南、安徽など非常に伝承の多い地域があるということは、その起源を考える上で注目すべきだろう。

一方【自分の運命】によって生きる王女】の伝承が多いのはインド

だとう。⁽⁷⁾ インドでは【自分の運命】によって生きる王女】は【自分の運命】によって生きる王子】【塩のように愛する】（日本の【塩がうまい】）と対応）とともに非常に数多く伝承されるという。

【自分の運命】によって生きる王女】が典型的な語り口を示すのは少数民族の伝承であり、少数民族では漢族と違つて両話型の話ともに財宝認識モチーフが見られることはすでに述べた。インドやチベット自治区に【自分の運命】によって生きる王女】だけでなく【金貨を見分けられない乞食】の類話が数多く伝承されているのだとし

たら、起源が異なる二つの話型が出合い、結びついたという仮説は成立しにくくなるであろう。しかしこれらの地域、特にインドに【金貨を見分けられない乞食】がみられないとしたら両話型がそれぞれ異なる発生起源をもつという考え方も意味をもつてくるであろうともわれる。

この意味で今後は雲南省よりもさらに西方のチベット自治区やインドの伝承状況の紹介が期待される。

つぎに日本と中国の類話を比較整理してみたい。

まず指摘せねばならないのは【金貨を見分けられない乞食】は日本でいう【炭焼き長者・再婚型】だけでなく【産神問答】をも含むことである。⁽⁸⁾ 漢族の【金貨を見分けられない乞食】は【産神問答】とともに似ている。そして少数民族の【金貨を見分けられない乞食】は財宝認識モチーフをもつという意味で【炭焼き長者・再婚型】に近い。つまり【炭焼き長者・再婚型】だけに直接対応する話型は中国にはない。

【産神問答】と漢族の【金貨を見分けられない乞食】の共通点は登場人物がすべて福分の有無、強弱の形象化であつて、興味の中心はその対照にあることである。【産神問答】は【男女の福分】とも呼ばれるように冒頭に産神の予言があつて男女の福分の有無が定まり、興味の中心は同じくさすがつた福分の対照にある。

また【産神問答】には財宝認識モチーフがあまり見られない。離婚した妻が貧乏人に嫁入るとその家が金持ちになつたという場合もあれば、妻がそのまま殿様、大家、分限者など金持ちと再婚するこ

とも多い。この点はすでに述べた漢族の伝承する【金貨を見分けられない乞食】の第一、第二系列の話の特徴と一致する。

また女が再婚する相手は貧乏でも炭焼きとはかぎらない。ただの貧乏人、柴刈り、不精者までさまざまである。この点は漢族の【金貨を見分けられない乞食】というよりむしろ中国の類話全般の特徴と近いといえよう。

【自分の運命によって生きる王女】は【炭焼き長者・初婚型】に近く、日本でいう【宝化け物】【蛸長者】【鉄門の福分】と類縁関係が強いことはすでに述べた。

ところで日本の【炭焼き長者】譚、あるいはその系統と分類されている話の中に中国と同じく【宝化け物】【蛸長者】【鉄門の福分】のモチーフが散見されることは注目すべきではないか。

たとえば『日本昔話大成』で【炭焼き長者・初婚型】に分類され

る昔話のうち、鹿児島県の沖永良部島の昔話「蛸取長者」は主人公があーがりという貧しい蛸取りで、娘に教えられて蛸穴から出るのが金だと知る。しかも子どもを抱いて取りに行かないお金が出ないなど福分の前借りという【鉄門の福分】のモチーフも現れる。【蛸長者】は福分をもつた娘が貧しい男の家へおしかけるという点では【炭焼き長者・初婚型】と同様なので、両者の類縁関係は検討の余地があると思われる。

以上日本、中国の話型を対応させてみた。この論では【自分の運命によって生きる王女】と【金貨を見分けられない乞食】は同一起源ではないと推論したわけだが、それが正しいとするなら、日本に

伝播したのはやはり少数民族の【自分の運命によって生きる王女】(【炭焼き長者・初婚型】)と漢族の【金貨を見分けられない乞食】(【産神問答】)の大きな二つ流れではないかと思う。【炭焼き長者・再婚型】は両者の結びついた、中間的な話ではないか。

ところで中国の【自分の運命によって生きる王女】と【金貨を見分けられない乞食】に対応する日本の類話をみると、一つの共通点がある。それは話の冒頭に中国の話に顯著な絶対的な福分にまつわる葛藤が出てこないか、あるいはやや弱まって現れることである。中国では人間の福分は誕生年、月、日、時間で干支で表した「八字」により機械的、絶対的に定まっていて動かすことができないと考へる。福分が絶対的に定まっているかぎり父と娘は対等であるから【自分の運命によって生きる王女】では父と娘の葛藤が生じるのである。

このため中国では産神が現れる必然性がない。現れるのはむしろ定まった福分の多寡を知るために占い師の言葉である。たとえば【金貨を見分けられない乞食】の河北の語り物系統の話では、張太剛は郭丁香を娶るまえに盲目の占い師に二人の運を占わせる。占い師は琵琶をひきながら「丁香は三斗三升の真珠の運、太剛は三斗三升のブタに食わす糠の運」と占う。また、夫と妻が豆の重さや胡桃の仁の数で定まったく福分の多寡を占う、という形もある。

これにたいし【炭焼き長者・初婚型】では冒頭の父と娘の福分にかんする葛藤がない。そのかわり娘は神のお告げや夢見など、やや受け身な形で家を出る。【産神問答】は冒頭に産神の予言があつて

子どもの運命を決定する点、かなり中国的な絶対的な福分と似ているが、誕生時間で機械的に福分が決まるまではゆかず、やはり両者は異質である。

話の冒頭と結末は変化しやすいというが、絶対的に定まった福分というような考え方が日本では受け入れられなかつた結果、【炭焼き長者・初婚型】では父と娘の葛藤が欠け、神のお告げや夢見によつて娘が家を出るという形に変化し、【産神問答】では日本的な産神の予言が加わつたのであるまい。

ところで、【炭焼き長者】譚は日本では柳田国男以来金属工芸技術者との関連が強調されてきた。日本で【炭焼き長者】譚と呼ばれる話は柳田国男が指摘したように確かに炭焼きが多く登場し、金属工芸技術者とのかかわりが強いことは否定できないと思われる。しかし中国では少数民族の類話にしか炭焼きが登場しないし、金属工芸技術者との直接の関連はみられない。

しかし一方で「轆角莊」を伝える雲南のベー族には犁を作る鋸物師の活躍する「羅刹」などの話があることから、村松一弥は日本の【炭焼き長者・初婚型】と「轆角莊」はやはり同じ金属工芸技術者の管理伝承する同質の話だとしている。しかしベー族など僻地の伝承がなぜ日本に伝わったのか。この点にかんしては今後の課題といふほかない。ただ日本で金銀が必要とされたのは仏教伝来で仏像に金を塗るためにあつたという。吉来ペー族は本主とともに厚く仏教を信仰するが、わが国でみられる典型的な【自分の運命によって生きる王女】は仏教説話集『今昔物語』巻二の「波斯諾王女善光

女語』であることを考えると、【自分の運命によって生きる王女】はあるいは西方からの仏教文化にともない伝播したのかもしれない。

しかし【炭焼き長者】譚と金属工芸技術者との関係がいかに深くても、金属工芸技術者だけがこの話を管理伝承してきたという説には無理があるのでないか。たとえば柳田は【芋堀り長者】の芋堀りも鑄物師（いもじ）が変化したとする。

しかし【芋堀り長者】の芋堀りは鑄物師で説明できても【炭焼き長者】譚の系統と考えられる【躰長者】の躰などは金属工芸技術者との関連では説明できないのである。また財宝認識モチーフの現れる【蕪焼き長者】なども主人公は貧乏な農民であり、やはり金属工芸技術者との関連では説明できない。

そうしてみると、【炭焼き長者】譚は金属工芸技術者の伝えた話としての【炭焼き長者】譚という話型を一度はずしたうえで、男女の福分を主題とする運命譚というもつと広い視野の話群として再分類を試みられるべきなのではあるまい。

話型要約

【自分の運命によって生きる王女】（丁乃通九二三B・要約・馬場／鍾敬文・夫の福分を享受する娘／エーバーハルト一九三乞食と結婚した娘）

1. 金持ちが娘（たち）に誰のお蔭の幸せかとたずねる。2.（末）娘が自分自身の福分によると答える。3. 父は怒つて娘を（最も貧し

い男とめあわせて（馬や牛に乗せて）追い出す。（牛や馬が足を止めめた家の貧しい男と夫婦になる。）4.娘夫婦は財宝をみつけて、金持ちになる。5.父は娘が正しかったことを知る。

【金貨を見分けられない乞食】（丁乃通八四一A・要約・馬場／エーバーハルト一七七銀の移動）

- 1.（占いの結果、夫は福分がなく、妻は福分がある）2.夫が自分の都合で妻を離縁する。3.妻は別の男と再婚して（財宝を発見し）裕福に暮らす。4.夫は乞食になり、（知らずに）妻を訪ねる。5.妻は財宝を食べ物の中に隠して夫に与えるが、夫は気づかず失う。6.自分に運のないことを知つて夫は自殺する／竜神になる。

【妖怪の家】（エーバーハルト一二四／丁乃通三二六E幽靈屋敷で妖怪をこわがらなかつた男）

- 1.舅・姑から追われた相愛の男女が妖怪の家で一夜を明かす。2.以前にはすべての来訪者を害してきた妖怪が現れ、彼らに守つてきた財宝を引き渡す。彼らは財宝の正当な所有者となる。3.彼らは金持ちになり幸福になる。4.落ちぶれた舅姑はふたたび彼らを迎える。

【子どもの宝】（エーバーハルト一七五）

- 1.出産間近の女性のいる家に一人の老人がやってきて宿を求めた。2.彼はしぶしぶながら承諾を得た。3.その夜子どもが生まれて名をつけられた。4.その老人が名前を聞いた時その人間を長い間捜していたといい、その子どもの宝が竈の中にあるという。5.子どもの名前でさすかつた宝がみつかる。

注

(1) 伊藤清司『昔話伝説の系譜——東アジアの比較説話学』第二章 金属文化と民間説話（一九九一・第一書房）

(2) 李星華『白族民間故事伝説集』「輶角莊」（一九八二・中国民間文芸出版社／一九五九年人民文学出版社版の再版）

(3) 沢田瑞穂『金牛の鎖——中国財宝譚』宝精篇・宝精零篇（一九八三・平凡社）

(4) 飯倉照平「中国のかまく神をめぐる物語」（一九九一『昔話伝説研究一六』）

(5) 揚楳如「介紹唱鼈」（一九八一『曲芸藝術論叢一』）

(6) 劉亞平『忙年——春節民俗民芸』張生休妻（一九九一・中国人民大学出版社）

(7) 節日百科大全編寫組『節日百科大全』竈王爺——臘月二十三の伝説（一九八六・吉林科學技術出版社）

坂田貞二・前田式子『インドの昔話上』記者解題（一九八三・春秋社）／アールネ・タムス『昔話の型』923B・The Princess Who Was Responsible for her Own Fortune(1981)／関敬吾「運命譚——その系統と分析」四・炭焼き長者(1)男女各福（一九八二『民俗学研究所紀要六』）

(8) 大成一五一A一／通観一四七／福田晃は「芦刈説話伝承論序説——【産神問答】【炭焼き長者】とのかかわりの中から」（一九七五『口承文芸の展開』）において、「炭焼き長者・再婚型」の伝承者である山間で炭を焼く人々が竈神、火の神

の由来譚である【產神問答】を受け入れ、複合して伝承した結果、両話型の近似がはなはだしくなったと結論している。

(9) 千田九一・村松一弥『中國現代文学選集二〇少數民族文学集』二・山間の民「炭焼き張保君」（一九六三・平凡社）

(10) 柳田國男は『海南小記』（一九二五・大岡山書店）「炭焼小五郎が事」で奥州三戸郡是川村の蕪焼き笛四郎については金属工芸技術者の伝承という解釈では解けないと疑問を投出している。この点について鈴木棠三は「蕪焼き長者の昔話」（一九三七『昔話研究二一七』）で蕪の黄色い花から連想される黄金との関連に着目し、【蕪焼き長者】もやはり【炭焼き長者】の系統に属すると主張している。

（せんの・あすか／法政大学）

炭焼長者・初婚型に対応する中国の話

出典 採集地	父	娘	争いの理由	出て行く手段 母の醜別	夫と家族	財宝発見の経緯	変身	実家の変化	父との再会	竈神 由来	その他
1 雜宝藏巻 2／法苑珠林巻68	波斯国王	善光	業力により愛敬されると答え貧乏人に嫁がせられる		乞食 父は衛城中第一長者	元の住いを探し伏藏の珍宝を得て屋敷を造る			父王は娘に招かれ自分の城に勝るものを見て仏にその前世を問う		
2 南詔書史 1550 [雲南大理(ペー)]	南詔王 閻羅鳳	末娘	父の縁談を断り夫婦を主張	牛のとまつた所に嫁ぐ金鏡	柴刈と母	柴を刈る山で金発見			金橋銀路を造る父と和解		
3 白族民間故 事伝集 1959 [雲南 洱源(ペー)]	白王	白圭王 女末娘	自分の福で生きている	牛のとまつた所に嫁ぐ銀	炭焼張保 ・首母	銀を犬雀馬に投げる炭焼の山で金発見			金橋銀路を造る父と和解		
4 [雲南民族文 学資料]1963 [雲南(ペー)]	南詔王	十女	農民に嫁ぎたい	牛のとまつた所に嫁げ 金の指輪	一番貧しい農民と母	柴を刈る山で金発見			金橋銀路を造る父と和解		
5 [雲南民族文 学資料]1963 [雲南大理(ペー)]	白王	賽花公主	大店の息子を嫌い家出	牛に乗って行く金奴	牛をもてない農民母	柴を刈る竹林で金発見			金路競争、娘の金は父より三個多い		
6 [雲南民族文 学資料]1963 [雲南大理(ペー)]	南詔王 閻羅鳳	三女鳳 伽英	弥勒公主を嫌い家出	牛に乗って行く 金耳輪	柴刈李陽	柴を刈る若山や洞穴で金発見			王の金橋銀路は娘が歩く土になる娘夫婦はいざこへか去る		
7 [雲南民族文 学資料]1963 [雲南鄧川(ペー)]	罔王	娘	父の勘める縁談気に入らぬ	牛を与え追い出す 金奴	柴刈と母	柴を刈る山で金銀発見			金橋銀路をかける父と和解		
8 南風1983-1 (ブイ)	金持	三女		牛	小作の若者						
9 [雲南民間文 字集成]1963 (ブイ)	金持	五女	誰のお蔭の福	銀貨 米ラバ 占い師	柴刈	銀貨を犬に投げる柴を刈る山で金銀発見		火事で没落 父は乞食に来る	竈神		
10 民間文学 1956・11 [雲南(サニ)]	王	先後の娘	貪しい男に嫁ぐ運命と祖母が讒言	馬に乗せ追い出す	竹(天秤棒)の先の金から若山兔見 昆明建設				和解		
11 [雲南民間故 事]1969 [雲南(チニ)]	父母兄 弟姉妹	末娘の南弟	孤児を踏まげそしられる	出眼犬、短刀	孤児	林で大蛇の宝石を奪う			竈神の宝石を皇帝に贈る和解		
12 哈尼族民間 故事選1989 [雲南紅河(ハニ)]	E	王女	たにし光りを好きになって家出		たにし光りの孤児	真珠はたにしを拾う所ある、真珠の母の石発見			宮殿をモデルに家財宝箱を作る父をもてなし和解		
13 [雲南民間文 字集成]1963 (ブイ)	金持	三女	金ではなく穀物が最も喜い	ろばで追い出す	柴刈	柴刈の山の石板の下に金発見			邸宅新築、父に水しか出さない父は金塊に打たれて死ぬ		
14 民間文学 1957・3 (チワノ)	金持 鄭鉄成	三女 黒三妹	自分の力で幸せになる		柴刈楊哥	山の中が宮殿になり常に金が飛び込む			追って来た父は金塊に打たれて死ぬ		
15 彝族民間故 事1988[広西 西畴(チワン)]	金持	七女 首目	福は自分にあると父に殺されそうに	馬に乗せられる 米一袋と銀三枚	洞穴に住む病氣の父女	銀を犬に投げると洞穴に入りそこで銀発見	料理に蛇 眼病治療	実家没落	父は乞食に来て竈にぶつかり死ぬ	竈神	
16 民間47 1929 [広西 桂平(チワン)]	金持 石崇	少女阿香	父の対聯を運によると直し結婚させらる	母、棕に金を包む	最も貧しい柴胡別居	金を用に捨てる、山にある、石を門にすると金が飛んで来る	天丹樹で 夫は蘇生		父に団面を借用 父が夫殺害	父死ぬ	父は木を切る
17 沿西苗族調 査報告1947 湖南鳳凰(ミヤオ)	金持	一人娘	貧富は運によって	馬のとまつた所 銀三百両	炭焼と母	銀を犬に投げる、炭燒窯で銀発見		実家没落 父は乞食	父は三日目に施しにありつく、銀入り餅を失う	焼死	竈神
18 風俗の起源 1988 [貴州 (ミヤオ)]	父	一人娘	父が縁談を断るうち経年なり父と衝突	銀	瘡かき孤児	山の洞穴で銀発見 銀を米一袋、服二枚と交換	姫スープ 美男子になる	父は乞食 もてなす	囲炉裏祭	囲炉裏で焼死	
19 彝語族語 言文学1983 (リー)	金持	七女	父は娘たちをそれぞれ連探しに行かせる	馬のとまつた所 嫁ぐ	孤児 炭燒	《銀の危険?》家や道具を言い値より高い銀で貰う		里帰りで娘たちにばかにされる	絆妻女房 百鳥衣		

20	甘基 E-1984 廣東連南 (ヤオ)	金持	四女	財産分けて父におもねらぬ 百馬のとまつた所に嫁け 銀一つ	炭焼と母	金をカワセミに投げる、炭焼場に金、妻 芋度をたどっていく	姉たちが実 家の財産を奪う	父母を訪ねるが すでに餓死	
21	婦女雜誌Ⅷ -10- 1921 広東合刊	金持	三女	一番大切な物 塙とおら	びっこのろばで 追い出され 金一つ	柴刈と母 金を火に投げる、谷 で金発見、金があつ た場所の石を門にす ると金が飛んで来る		父に生えよ、塙 無し料理を出す 父は金に打たれ る	
22	中國民間伝 説1931	金持	三女	塙が大切	ろばで追い出され	柴刈	山に金、その石を門 にすると飛んで来る	父に塙焼き料理 金に打たれる	
23	花郎1930	金持	四女	天地自分の福 運で生きる	あひる舡いの船 に乗せられる	醜い、あひ る舡い	あひるの開い、鳥金 発見	迷路で美 男子に	父の誕生日 姉妹たちに新築 費出させる
24	民間文芸採 録1956補刊	柳員外	三女 秀玉	貧乏人に嫁ぎ たい		蛇捕りの 阿笠と母	動物に撫く、開墾 若財	父の誕生日 姉妹から新築費 父の財半分とする	
25	独脚仔1932 浙江新市	役人	三女 財福星	各人それぞれ の福を主張		船の値 きと食と 母	川原から鳥金発見 米屋を開く	赤練蛇料 理食べて 美女に	好物あひる料理 を出し、父にも う来るなど言う
26	紹興故事 1929 浙江紹興	金持	末娘	版焼きとの仲 を疑われる	船で流される	版焼き老 虎	化け物屋で運命の 宝金銀獲得、質屋を 開業	史家没落 父は乞食	好物スープを出 す、父は謝罪、 和解
27	三個願望 1931浙東	父母	李小姐	駆け落ち		作男張三	運命の宝金銀獲得		
28	民俗107 1930 浙江富陽	員外	三女	天地自分自身 によって生きる		木こり	父に息子の命名依頼 息子頭の宝金銀獲得	金銀は蝶 になって 飛来	父の家を開んで 新築 父詫びる
29	婦女雑誌 II-2- 1921 浙江上虞	役人	末娘	ムカデを呑み 不育による妊娠 を疑われる		乞食の周 金林	運命の宝金銀獲得	ムカデド リ	
30	龍灯1960 華東	柳員外	三女 秀玉	貧乏人に嫁ぎ たい		魚釣り孤 児王勤	開墾、蓄財		姉妹たちから財 産半分取る
31	云中の母親 1933 上海	役人	一人娘	運は決まって いると紺巾を 落とす		しらくも の柴刈と 叔父	山で龍宮に通じる魔 法の枝を得て真珠と 金を獲得家を建てる	池で美男 子に	父は王の難 題で困る 珠女での難題 解決
32	広州民間故 事 1929 広東広州	役人 (状元)	三女	貴相の娘とい う期待で背き 乞食に紺球	夢て神仙のお告 げ	乞食	小屋の床石に鳥金を 発見。夫は役人(状 元)になる		父は目をく りぬく 家を建てる
33	広州民間故 事1929広東	金持	三女			愚か婿	椅子を修理、鳥金を 拾う	火事と水害 父母は乞食	新築祝いに施し 父母謝罪、義う
34	董仙-花店 1931 江蘇無錫	金持の 張員外	末娘	大晦日おのお のの福を主張	銀百両	乞食	山宿泊の家で化け物 が金を渡す、運命の 宝獲得、米屋を開く	雀が出て実 家はから ほ父母乞食	好物ワンタンを 出し再会、父母 扶養
35	湖南唱本提 要・三姑記 1928 湖南永州	E桂	三女	貧しい蕭家に 嫁に入る、母が 改嫁を勧める が断る			畠で金発見、息子は 役人になる	母、乞食 姉の家も没 落	母扶養
36	沔陽文芸 1981 湖北沔陽	員外	三女	自分の福運で 生きる	ラバ、路銀	柴刈と母	柴刈の山で鳥金発見	父母、乞食	父母に施しの順 が来ない 父母扶養
37	満州の故事 と吉話1943	員外	一人娘	天命を主張		乞食の沈 石山	実は大富豪の息子		
38	台北文物 4-7-1959/ 台灣故事 1973	張福山 員外	三女 王枝	福運は決まっ ている、最も 貧しい男と結 婚させられる		蛙／魚と りの李不 直	白兎を追い山の穴で 鳥金発見、息子が門 牌の宝、状元になる	父の誕生日	現金を隨し姉妹 たらから安く烟 を買う
39	台灣故事 1973	員外	三女	自分の運を主 張	真珠一箱	乞食乞 食	化け物部屋、息子依 子の宝獲得、真珠 発見	寺で蛇酒 美男子に	父、孫の名付け
40	某黃忠1931 台灣？	金持	娘	紺球を乞食施 設に投げる		魚壳り施 設と母	息子施門鉗の宝、生 銀		
41	台灣民俗 1970	金持	五女	紺球を乞食に 投げ、乞食と 追い出される		乞食（呂 崇正）	山の空き家、化け物 から運命の宝を獲得 夫は役人(状元)に		父も喜ぶ 呂は状元
42	台北文物 4-7-1959	金持	娘	駆け落ちしよ うと出て、乞 食に出会い	(娘の荷物)	乞食の太 陽偏	運命の宝金銀獲得		乞食校無業は施 しにありつけず 銀入り餅も失う

炭焼長者・再婚型に対応する中国の話

出典 採集地	夫	妻	結婚離婚 の理由	出て行く手段・ 體別	新しい夫 と家族	財宝発見の様様 金持になる理由	変身	前夫の境遇 変化	妻との再会	竈神 由来	その他
1 湘西苗族調 査報告1947 湖南鳳凰 (ミヤオ)	五子大 敗 金 持次男 貧窮相	五子大 奔 貧乏 福相	占師の言で父 が結婚させる 妻の実家の出 産祝に不満	馬と銀五百両	榮刈と母	銀を夫に投げる、家 の周囲すべて銀鉄で あることを免見		乞食	施しに来るが順 番が来ない、銀 入り餅をご飯と 交換してしまう	自殺 竈神	
2 湘西苗族調 査報告1947 湖南鳳凰 (ミヤオ)	具有壹 金持	欧氏 貧乏	栗払い、妻の 実が多く嫉妬	馬	山仕事の 息子と母	白銀を渡す 山で銀発見		没落			
3 湘西苗族調 査報告1947 湖南鳳凰 (ミヤオ)	男寡の 員外	乞食娘	占師の予言 夫は其の実家 の出産祝不満	馬と銀五百両	炭燒と母	家の裏の洞穴で銀発 見		没落、妻に 細を売る	妻の財産を見て 横領したと訴え 罰せらる		
4 中国民間故 事精選1993 四川扶 (ミヤオ)	員外の 連れの ない息子	乞食娘	占い師の予言 娘でほかにさ れる、くるみ 占いで表勝つ	ラバと銀 ラバの行くに 住す	榮刈の王 と母	銀を渡す、柴を刈る 所の岩穴で銀発見		乞食	母誕生日に施し 銀入り餅を渡す が失くす、餅は 妻に届けられる	自殺	
5 三江侗語 1985 広西 (トン)	金持の 連れの ない息子	乞食娘	占い師の予言 娘を見抜く女 を娘にし婆で ほかにされる	追い出される 金の釵と古い馬	農民黒と 老母	年末に金钗で貢物、 使えず間に投棄 トウキビ細で金発見	妻が洗う と夫は白 くなる	乞食	施しを受けられ ない、銀入り餅 を交換してしま う	田耕 異で 自殺 竈神	妻、菩薩
6 金匱要略1955 (ヤオ)	虎哥	月妹	月妹事故で片 脳に、媒人が 程は福相とお たてる	壊れた鉗と煮た トウキビ三粒。 頭の風の下に小 屋を作る	近所で働く 農民 石生	巨大なトウキビ ピワ鳥の言葉理解	腕が治る	失明手足の 腐った乞食	息子の一才の祝 て米粉を施す	逃げ 去る	
7 台湾民俗 1970	米福 員外 貧窮相	金枝 福相	占師福相の女 を授し運を補 う					乞食	金入り餅、知ら ずに安く売り、 妻が買ひ去す		乞食の運 命
8 台湾民間故 事1980	張定福 怠け者 酒博打	立派な 妻	暮せないので 妻を売る		金持			乞食	大晦日に銀入り 餅、博打する	自殺 竈神	定福神位
9 民間文芸2 1927华东?東? 貧乏運	左官	妻	貧しいので改 嫁させる		金持			仕事先で妻 と再会	銀入り餅、だま し取られる	自殺 竈神	
10 民俗78 1929 広東潮州	夫 貧乏	妻	暮しに困り離 縁		金持			乞食	現夫、妻と話 していた先夫を殺 す	竈神	司命公
11 潮州支那の 習俗1938 (南方)	博徒	妻	借金のため妻 を売る					乞食	妻と談話中、現 夫居宅し、竈に 隠れ焼死	竈神	火吹き竹
12 民俗86・7・8 ・9 1929 広東翁源	阿片吸 い	妻	妻を売る		金持			乞食	豚脂下に銀、取 られる。掃除夫 に雇う暮に死ぬ	竈神	送窮(貧 乏神送り) の由来
13 民俗25・6 1928 河南	張定福 貧乏	妻	夫は兵隊に行 き帰らぬので やむなく再婚		金持			乞食	銀入り菓子、安 く売ってしまう	自殺 竈神	定福竈神
14 終南山の伝 説1987 陝西終南山	張無能 博徒	李	生れた時に現 が結婚約束 妻を賭ける	博打のかたに連 れて行かれそう になり自殺						自殺 夫婦 竈神	
15 中国民間故 事集成吉林 卷1990吉林	張妻 貧乏	妻	暮しに困り妻 を売る		金持の李 の後妻			乞食	妻と談話中、現 夫居宅し、竈に 隠れ焼死	竈神	
16 潮州支那の 習俗1938 浙江鹿邑	夫	妻	豆の重さて福 占い、妻が勝つ	家出	貧しい老 母と息子	金持になる 老母の病氣治る		賭博で乞食	金の指輪入りご 飯	自殺 竈神	
17 香港君創作 誌文集1983 河南鹿邑	張 金持	妻	正月の菓子用 くるみで福占い、 妻が勝つ	追い出す	貧しい老 母と息子	妻は福星だから金持 になる		没落難民	施しの順が来な い、耳輪入りの 食べ物	自殺 竈神	
18 民間文学 1987-1 河北延慶	竈王 金持	俊娘	妻の実家没落 男が追い出す	林で首吊り自殺 を図る	老人夫婦 が助けて 義方に					自殺 竈神	妻も竈神
19 中国民間文 字集成行唐 卷4山西民 間故事1991 河北鹿邑	張龜王	妻	五道神との賭 けに勝ち、五道神 の許婚を得て妻を離縁		金持	結婚後ますます裕福 になり、毎日、喜捨 する		夫婦で乞食	施しの順が来な い、5どんを食 べて前妻と知っ て逃げたす		

20	中国民間風俗伝説1985 長江流域	李向心 意け者	農民 庄懶敏	仲人が奸の照 平を妻にさせ る	追い出される		開拓民の長になる		乞食 照平は去る 出火		自殺 電神	妻も電神
21	山西民間故 事1982・4	王醜児 金持 一人息 子	張秀英 異常に 長い髪	妻の運勢が母 と自分を犯す といつて離縁 李海棠と再婚		貧乏人の 張三と義 兄妹に	張三はがらくたと思 っていたが庭の中は 金と銀、金持になる		火事で失明 乞食に、海 棠は逃げる	うどんに指輪と 髪の毛、妻と気 づく、張三帰宅 して怒る	妻が 自殺 電神	張三も後 追い・自殺 電神
22	山西民間故 事1982・4	張太郎 金持 一人息 子	郭燕双 働き者	妻を追い出し 李海棠と再婚	庭で建物家畜を 打し「私のもの はついで来る」老 黄牛とぼう車	張三	働いてしたいに裕福 になる		火事で失明 乞食に、海 棠は逃げる	うどんに高梁葉 の長短不揃いの 名を出す、張三 帰宅して怒る	妻が 自殺 電神	張三も後 追い・自殺 電神
23	民間文学 1980-7（陳 璋君再話） 江蘇？	張太郎 意け者	郭丁香	花花二海棠が 服と子無しを 非難され き古頭	「私のものはつ いてまい」老黃 牛と女中が食う	柴胡范三 郎と母	土地を開墾、勤勉、 息子誕生		火事 海棠焼死	洪水の施しの粥 食べ損なう	自殺 電神	台拭き、 火かき体
24	民間趣事新 集1931 河北沙河	張太剛 店財主	郭丁香	盲目占師子言 「丁香珍珠連 張は豚師連」 子無し理由に 妓女花花海棠 と再婚	牛、嫁入り道具 の荀	野草とり の范三郎 と老母			火事、 海棠焼死 張乞食	食事に金釦	自殺 電神	服切れ端 は足ふき 足は火か き体
25	中国古代民 俗版画1992 山東	張万倉 意け者	郭丁香	商売に行き、 海棠と会る	離縁	金持			没落火災 海棠改嫁 失明乞食	うどん、前妻を 思い出す	自殺 電神	
26	山东民俗 1988山東	張金持 意け者	郭丁香	李海棠					火災 失明		自殺 電神	
27	民間文学 1957-12 山東膠東	張郎と 両親	丁香	富商になり妓 女海棠と結婚	牛とぼう車で追 い出す	柴胡と老 母			火事 海棠焼死 乞食	うどんの中の叔 と争りて捨てて しまう	電神	
28	天下郎配夫 妻1983内蒙 古（山東出 身者の話）	張臘月 遊び人	郭丁香 まじめ	隣の遊び人 王海棠と再婚	離縁				没落、 海棠改嫁 怒って失明 乞食	食事に金銀を入 れてあるが、喰 めぬので捨てる	電神	後に妻も 祀られる
29	中国民間故 事集成吉林 卷1993吉林 柳河（山東 出身者の話）	張郎 金持	郭丁香 五尺の 黒髪	意け者の妓海棠 が離縁させ 自分が妻にな る					没落 海棠改嫁 怒って失明 乞食	うどんの髪の毛 で妻を思ひだす	自殺 電神	
30	满族三老人 故事1984 遼寧	張郎	丁香女 孝行	病気の姑に孝 山の妖怪美女に 化け夫を騙す	離縁				出火 乞食	再会するがまた 火事で夫婦焼死	電神	妻も電神
31	中国民間風 俗伝説1985	張三	郭丁香	從妹が丁香を 離婚させ、自 分が妻になる	追い出され「私 の財宝はつて こい」と唱える	再婚	金持 妻の財産が移動する		没落火災 失明 後妻改嫁	うどんの中の指 輪で目を開く	自殺 電神	火かき体 台拭き上 脇にたる
32	曲芸藝術論 叢1981-2 (明書) 安徽・河南	張万良	郭丁香	父同士崩宿り 婚約宝衣光り 蛇精と争う 王滿香と再婚	まだらに行く 先を任せ	范西郎と 母	郭丁香の涙で小屋が 光るので掘って金を 発見。豆腐屋開業		王滿香は帝 星、火事 乞食	好物のうどんの 中の婚約時の値 りで妻と気づく	自殺 電神	妻も自殺 電神に
33	民間文学 1981-10 (龍吉) 安徽・河南	張万良 技乏 意け者	郭丁香 勤勉	子無し理由に 義妹王妙香（ 花花二海棠） と再婚	牛車、市中、川 で身投げを図る	柴胡范三 郎と老母	勤勉に働き、息子も 生れる		火事、 海棠焼死 張失明乞食	誕生祝の施し、 うどんの中の叔 を指てる、長い 髪で妻と気づく	自殺 電神	服切れ端 稚巾、足 火かき体
34	中国地方戯 劇集成・安 徽卷・應劇 1959安徽淮 河	張万郎	郭丁香	盲目占師子言 「丁香は良運 張は運なし」 子なし理由に 義妹と再婚	家に鳴い、牛車 自殺を図り助け られる	柴胡范三 江と老母	息子誕生		火事、王妙 香焼死、張 失明乞食	誕生祝の施しの 銀入り禮頭を騙 し取られる	自殺 電神	

（千野明日香・馬場英子）